

今後の施策の進め方(ロードマップ)

実施目標の凡例

- 1 : 速やかに検討を開始し、年内に実施(試行)
- 2 : 速やかに検討を開始し、年度内に実施(試行)
- 3 : 平成19年度前半を目途に実施(試行)
- 4 : 中長期課題として検討

施策		具体的な取組目標	実施目標 (優先順位)	担当部会	
小循環	(1)発注者の品質確保への取組強化	1) 施工プロセスを通じた検査への転換	検査頻度の増加や抜き打ち検査の実施、中間時及び完成時における検査の充実、成績評定へ反映	1	設計・施工プロセス部会
			ICTチップを活用した検査手法や非破壊検査等、最新技術を活用する検査手法(企業の積極的な技術開発の促進を含む)	2	
		2) 現場の問題発生に対する迅速な対応	「ワンディ・レスポンス」の実施等、問題解決のための行動の迅速化	2	
		3) 適切なペナルティの検討	指名停止等の弾力的な運用を図り、トラブルの早期発見・早期対応につながるような仕組み	3	
	(2)発注者の体制整備	1) 人材の育成、技術力の継承	技術的判断能力を身につけられる仕組み・体制の充実と技術継承プログラムの構築	3	
			全ての調達過程において外部の活用が可能なことを分類・整理	1	
		2) 発注者支援の仕組みづくり	3者会議の開催、設計VEの活用	2	
			CM方式の活用	3	品質確保部会
			発注機関支援の認定技術者制度の導入	1	
	(3)受注者による品質確保への取組強化	1) 設計照査制度の導入等適切な品質管理プロセスの確立	設計における照査制度の見直し	2	コンサル委員会
品質証明員制度の適宜見直しと適用拡大			3	品質確保部会	
2) 技術者資格要件の検討		設計者の資格要件の適切な設定、又は資格制度の導入	4		
中循環	1) 多面的で適正な企業・技術者等評価の実施	CORINS・TECRISを活用した企業実績等の共有・活用できる仕組み	2		
		多面的な企業の評価と受注機会確保の仕組み	3	企業評価部会	
		入札ボンドの実効性の検証と本格導入	2	企業評価部会	
	2) 企業の技術力を重視した格付制度の導入、入札参加要件の設定	総合点数の主観点数割合拡大、構成項目の見直し	2	企業評価部会	
		企業の技術力を重視した格付制度の導入、入札参加要件の設定	3		
	(1)成績や体制を重視する企業・技術者等評価の仕組みづくり		評価点の算定方法の工夫による技術競争の充実、評価手法の随時の検証・見直し	1	総合評価委員会
			適用対象工事の更なる拡大	3	
		3) 総合評価方式の充実	技術提案履行状況の確認強化と受注者が誠実に技術提案を履行する仕組み	4	
			詳細設計等の業務の調達における総合評価方式の拡大	1	コンサル委員会
	4) 下請企業(専門工事業者)を重視した調達	元請企業と下請企業の適正な関係等を重視した調達手法	2	総合評価委員会	
工事成績評定における下請技術力の評価と技術者表彰制度の導入・活用		3	設計・施工プロセス部会		

施策		具体的な取組目標	実施目標 (優先順位)	担当部会	
中 循 環	(2)発注方法の最適化	1)計画・基本設計における技術的検討の重視	設計業務の実態に即した適切なフィーの算定方法等、当該段階における技術力に基づいた知的生産活動の評価方法	4	
		2)設計と施工の役割分担の見直し	詳細設計付工事発注方式や設計・施工一括発注方式のあり方(設計者と施工者の役割分担の見直し)	3	品質確保部会
		3)積算手法の見直し	ユニットプライス型積算方式の適用拡大	3	
	(3)契約・支払い方法の最適化	1)支払制度・瑕疵担保の見直し	受注状況(ダンプ等)に応じた支払方法の検討と出来高部分払方式の活用拡大等	4	品質確保部会
			出来高部分払方式の活用拡大、検査・検収のあり方	4	品質確保部会
			瑕疵担保期間の延長等、瑕疵担保のあり方	4	
		2)総価契約単価合意方式の活用	総価契約単価合意方式の拡大	1	品質確保部会
大 循 環	(1)情報の共有化・活用	1)設計思想等の伝達・共有	3者会議の積極的な開催	2	
			重要な構造物における設計者による施工監理	3	
		2)各段階における経験・知識の環流	設計ミスや施工不良等に関する情報を蓄積し、以後の計画や工事等の発注時の条件設定、検査等の技術的判断を要する場合に活用する仕組み	4	
			維持管理段階における不具合(瑕疵を含む)やメンテナンス実績等の経験や知見を蓄積することにより、以後の施設更新や同種施設の計画、設計等に反映する仕組み	4	
		3)大循環を支える仕組み	CALS / ECを活用して、発注者内部での情報共有とリアルタイム化	4	
			各担当職員が抱える技術的課題や問題認識、それらに対する知識や経験についての共有化(ナレッジマネジメント)する仕組み	4	
		PM方式の活用 (LCCを考慮した複数年契約)	4	品質確保部会	
	(2)建設生産システム全体に係るPDCAサイクルの構築	建設生産システム全体のPDCAサイクルを構築	4		
(4)技術開発の促進	公共工事等における新技術活用システムの活用推進	1			